立花便覧

上

166
1.50

1026
1.00

385

SHOUT
SHARE
IT

716.2
.R4

立花便覧序

四時(よつのとき)にうるはしきものハ
植物(うへもの)よりいちじるしきハなし彼(か)なつまに
けりと見ゆる初の花た松のみどりも春
くれバさも和(やハ)らかなる緑(みどり)のよそほひ
ハたゞまつ又志(こゝろ)のなかりき椿垂丹(つばきしだん)柳(やなぎ)
面(おも)ハ未立(いまだたゝ)のいとやこのなる重(へ)まくの
秋乃(あきの)いろ未(いまだ)衰(おとろ)ふ菊(きく)ハ霜(しも)まて人(ひと)と
とゝる天竜(てんりう)人(ひと)もひとりかれなるあなた
おくめてくさまきハ風(かぜ)

なうてもよてあらそふ如
あまたの如ありとこのや比術(ろ)ヶ規(き)模(な)ともに
志(こころ)ある人ハ志(こころ)ざしてこと〳〵く学ぶともやとれ
人乃学ぶ処なくおくあるまじ元便覧とそいふもの
なり

元禄八年正月之吉　　松嶺山題(ス)

日捐(ひすて)ヶ松ヶ事
日捐(ひすて)り松ヶ変
日仏流(ぶつりう)打付(うちつけ)松ヶ変
日辺(ひなた)の入松ヶ事
一草砂物辺(すなものへん)入松ヶ事
水仙葉ヶ松ヶ変
三つ心の竹松ヶ事
合心ヶ松ヶ事
相生(あいおい)心松ヶ事
花籠辺(はなかごへん)松ヶ事
同立花道具(どうりっかどうぐ)松ヶ事
奥の事

右三十ケ條ひろふべき事

遠き花
三つ具足花の事
筒束花の事
祈禱神前花の事
松竹梅花の事
水際花の事
祝儀小用の花の事
祝儀小用へき花の事
鍵鎖の扁額の事

真の花の事
行の花の事
草花の事
對の花の事

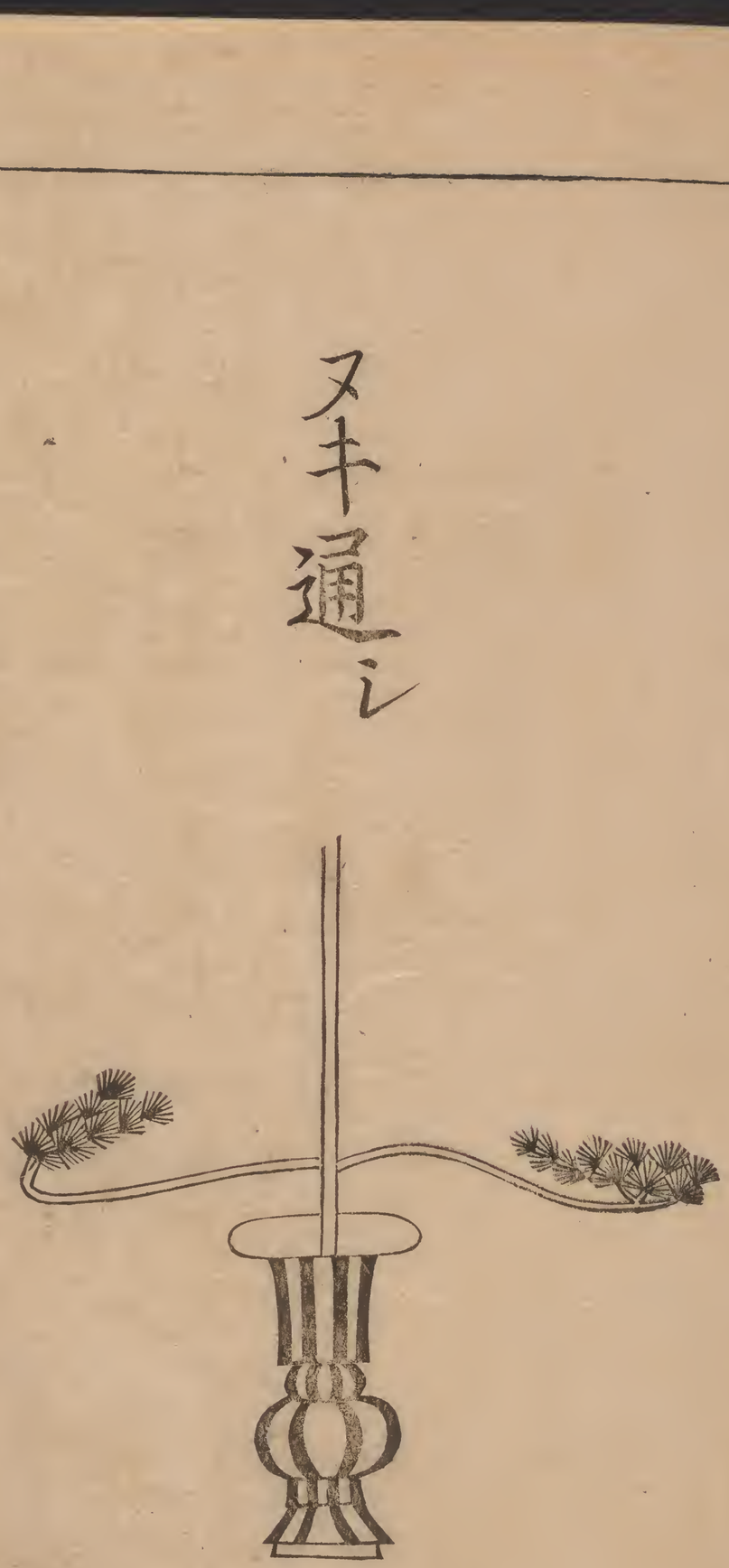
書院

抜通花の事
籠磨の事
越まり花の事
枝きりの事
本きり花の事

葵二枝共事
合前垂事
枝二枝ヲ
長ク
腰折ノ
後ヨリ前一回枝ヲ
籠ノ口ヨリ下ヘ枝ノ事
四ツ手ニ
此十三ヶ條ノ
籠ノ花籠ノ
祝云花ノ
十二月ヨリ用物ノ
五節供ニ
ナゴリ
草木ノ
元服袴
花一籠ノ
大葉ノ
花籠ノ
祝後ノ心

三瓶乃花活法之事
蓬之一色乃事
四季之指板乃事
通用物乃事
石菖之事
苔用物乃事
一色物之事
三ケ之箱乃事
砂鉢花壺之事

空目録終



葉スリ

越切

枝切

本切

葉越

合前乱

枝越

長ク二入

コレヲレ

後ヨリ前ヘ出ス一枝

親ヨリ下ヘ枝

副

見越

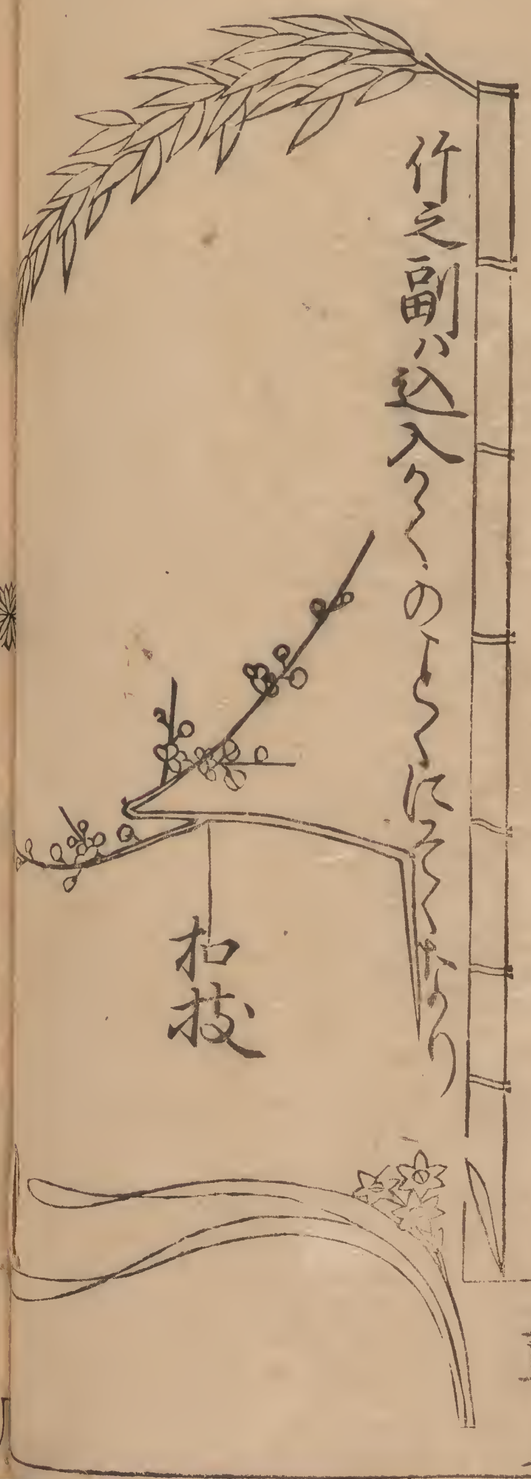
前正

正

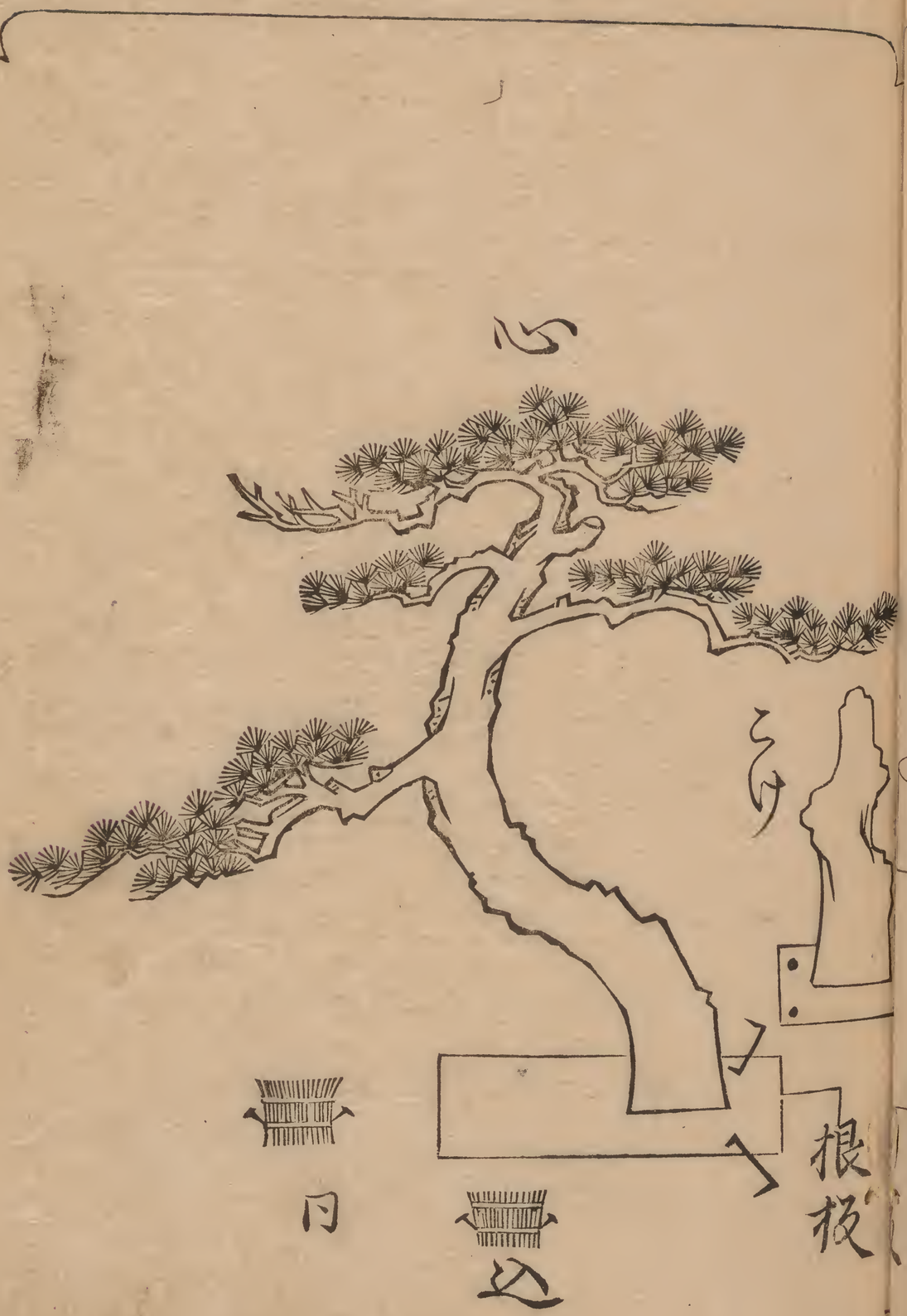
請

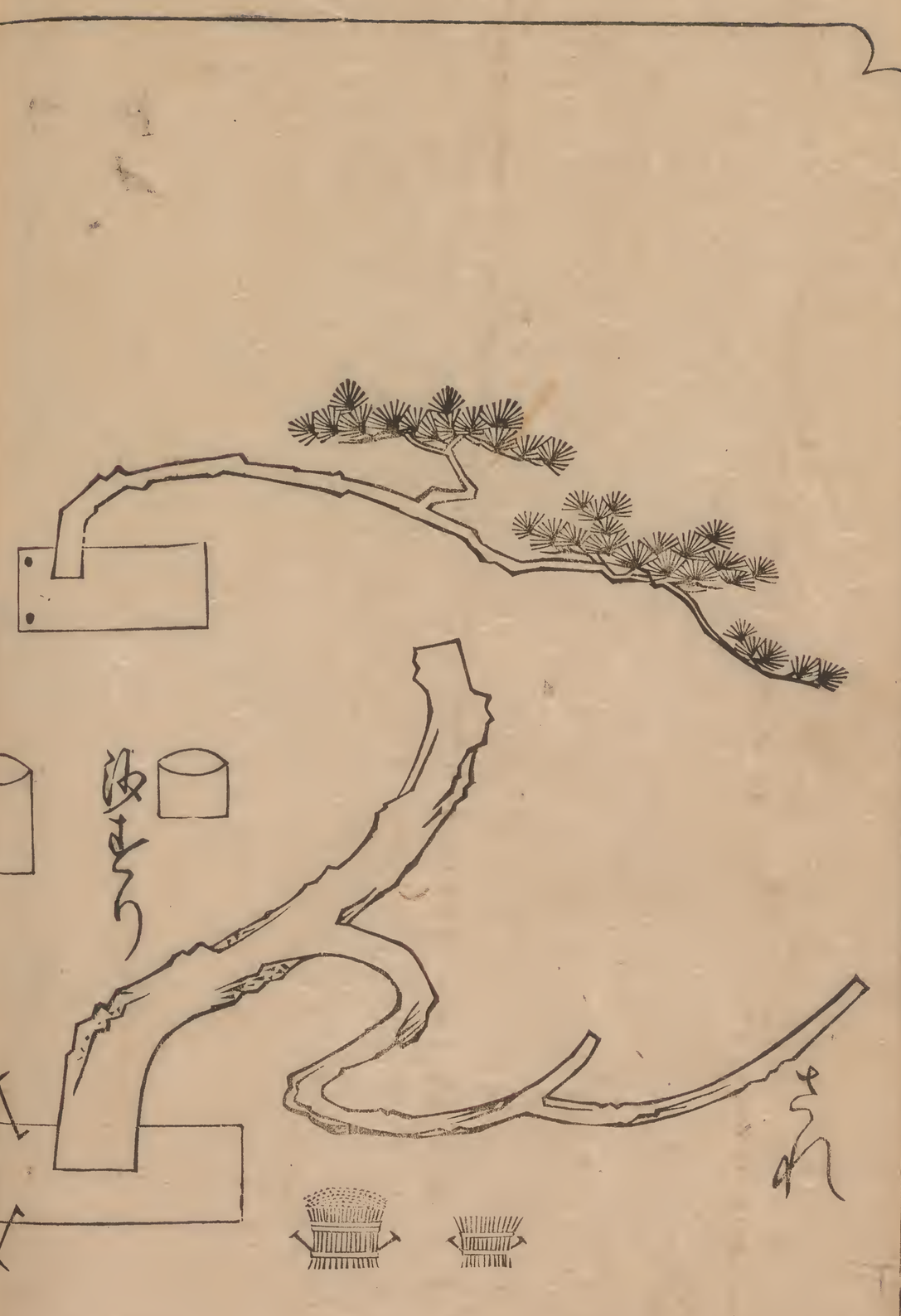
流

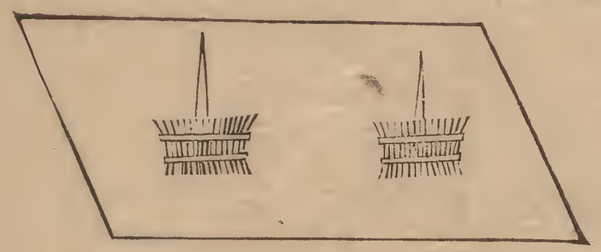
心
副
正
請
流

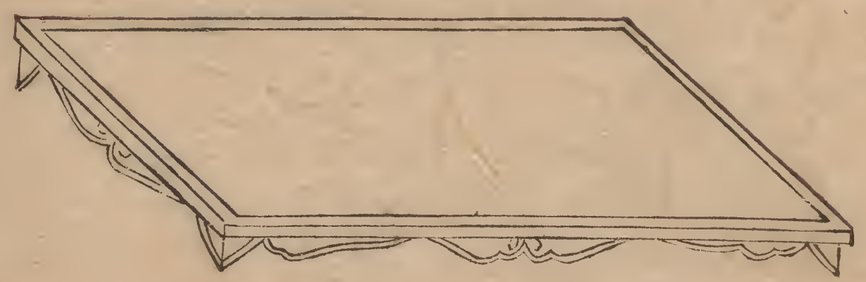

竹之副ハ辻入のごとくにそなり
控枝
真ん

洞仏
同
洞仏

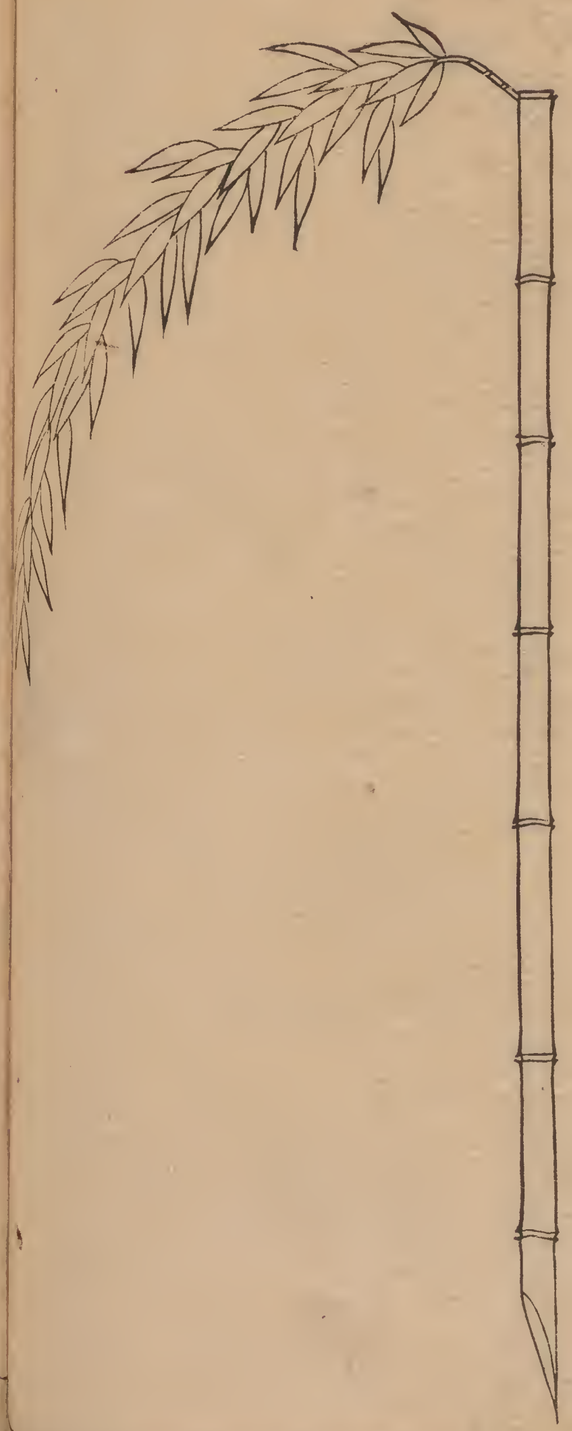

根板

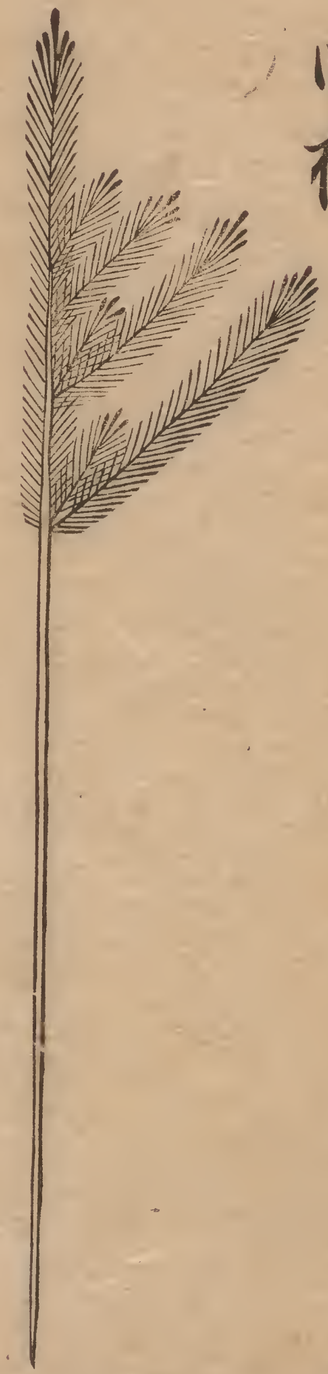






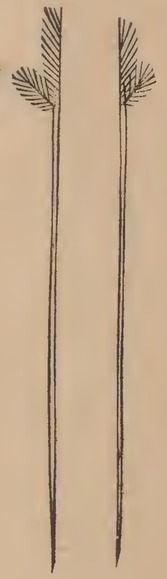
二ツ心楫





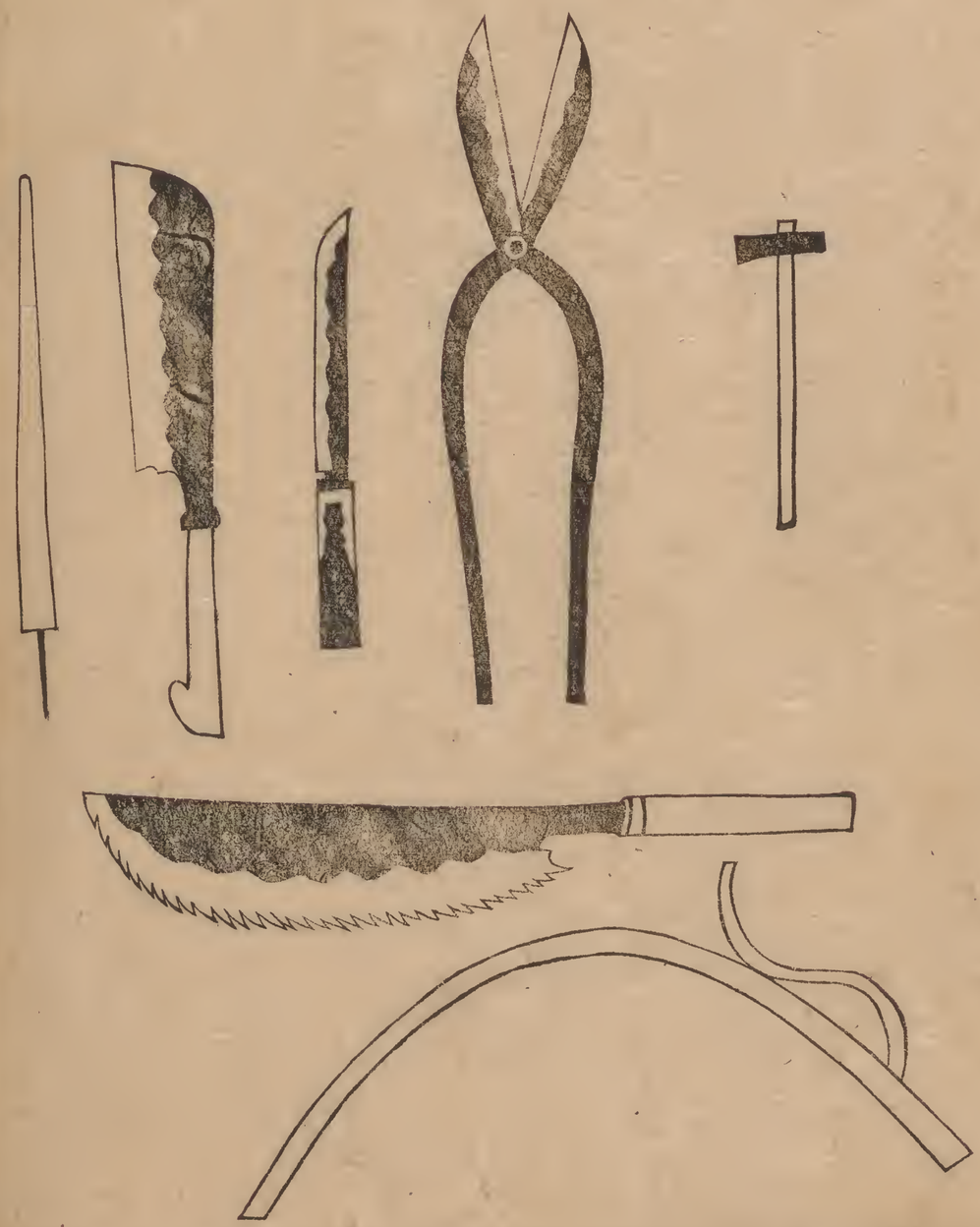
合心楫

正心楫



相生こ松

込よ



○心の葉こと

一枝葉のひまなく繁りたる木を枝と云ひ葉と云て用ゆ長短枝葉の
て定方となく方角をなくして枝葉その如くして園むのこと也とりかつさとして心ある下草とうつのわきてはまくよ
ここでこのことをもこゝにあてたるこゝろ

○行ひ葉こと事

一行ひもとより心の発をすゝめつゞけたるまこゝ
とめのを指副とうけまた則行ひ発なり心かさねても
同じるもの又さいうもした深くる心あても指副流もあるこ
結の下へ添ゝ指もの道具をとりのぞれ行のもとそ

○草木華ㇾ事

一草乃花とゝのへ行のむとゝ
ひより植て添とり也剪
しも其まゝそこにおくそ
○對むかふ事

一直心あしき隙心そこも同
草ともひろき草と
一接通とゝの流と和と同
にひくゝり

一親麁とゝのへそこも校差
一疎切とゝのへ胴のあいこと

一校切とゝのへそこも疎切のやう
一葉疎とゝのへ枇杷 紫薇 柏葉 等ハ大葉ゟ下り
そこも草にそこも指ヲとゝなり

一合前垂とゝのへでとゝく事とゝの第
そうゐ次ありくゝに指へ

一校疎とゝのへ校のあうでよ
一長比とゝのへそこも未ゟ同しやうにあひとゝのへり

一添折とゝのへ校葉のやう
なりそこにくゝり

一後より前へ廻して次の心先
一枕のごとく下段構えにて次の
む流れなどのまま乃きを
乃さきのなれもわり
一同じくまた次の副後流れ
らず同じくもあり

以十三ヶ条にて

○心の華外剣と事
一心先一の段より六七分下心
副乃おもり副と流の中おとり
○刀の拍子事
一心私乃こへたたくまり先を指へ二揃乃時女揃乃こへ
より後へなり心のこと
も草あて男也一心先方
○砂物比ぬと事
一弥女おにり二揃の時へ三打一の中おひろく二揃の時へ
三打ひと分心乃のさ分方と男揃流の方と女揃とう
ゆへもて指へ

○砂物揃剣と事
一苔藤或ハ私のおさ切をこと心の方より
より一女揃分ゆへ一両方共に直なる未先
ひさ切へかくうもその男でしらぬ三うもて揃
とてあまりうへ危乃りうへ

中入る指をうつすとも投すともよろし

○同心流すて投うつ事

一心流とびて投うつより手付るもあれども
なりうつにおいて根投とうつ事
投よの心うつすとうつ事

○同じく入投うつ事

一指すなわち手なり両人のゆびをひめすなうつも打とうつにて
けと投よ手付のなりのいごうどうつ事

○草加過込入投うつ事

一活草の時込入投かまえとく打とうつ手付投
うつなりひとうつかうつ事

○脇落流水流脇落

一両人の脇を水流の如く落すとうつ事

○二心の行松心く投うつ事

一三重九松一方中ほどの投とうつ
行ふ末の投きへなりかけあう方ともふ末同しうさあり中
のさうつもうつまてとうつ投一心二つを後副同しく
異うてもとうつかうつど前重ねの如くふ末とふ
もへ前重ねの如くふ末とふへ草木もあう方へ
わけてとうつかうつす事

○合心の松九指投うつ事

一三重ほどの松一方あう方とふ

心の華より同じ心より合ひ花折り習のは作なり

○相生忘れざる事

一女八一まりして有る際より男へ出でる松なり
毎の枝るさまざまはしまするをも習ひかし

○花親は指枝を

一迎をそうたなる○八ひとつこばゆひあるを
ほりとくたるよりそうこばふるおわこるを」

○立ち指道具を

一据（のこぎり）小刀きり かなづち あさこみさこ あるさ
はさみのたぐとたるものを

○過ぎた華こ事

一三具ぶれむの心得るさ元花枝をけまた作まてをも
ありそくえこそる元は二花でありもお急をこ事
流者妨のぶりでまて御こ流とけりくへとよりり
様とまた四枝とうへなあてを草まれ松葉御の
面像よりかもあやうみさひを

○筒束華こ事

一心へるさと様へ前てひさくちまり棚の程度お
枝うりかの枝葉ぶ出をそ縛るへ

○新稽弟子華こ事

一心まは枝葉のぶうこ直心とまともへ心ようご

て植とようようれ枝とんの事

○松竹梅の花こと事

一松竹梅は三枝を用るを以て
必ず押枝三瓶の心よ松竹梅事を

○水際こゆ植こと事

一水際ゆ植こと事よりの一すくり雪こと色ろ
ろ際ゆ植こと中ハ夏秋のうるて一すむ
ろりや植こん也て必際と
ろりあるへ色ハ去生て雪こと
ようと去ハきこと元の株て
雪この草等ま枝こてこ
植こ南面の花ま枝りて映こ水

橋

紫陽花　桔梗
岸比　山橋　長春
杜若　芍薬ま　萄萩
九仏ま教用色へ

○秋ゆ始ゆへき花こと事

河骨　菊
酢ま　水仙花　金蔵花
蓼　仙翁　百合
芦　小歯朶ま
蘆

秋

紫陽花　桔梗
河骨　山橋　長春
酢ま　芍薬ま　萄萩
流下花　竜膽
杜若
九仏ま教用色へ

○秋ゆ始ゆへき花こと事

河骨　山卯ま　紫苑
る酢ま　芭蕉　夢殊沙花　嵐尾草
蓼　鳳仙　鳶尾
赤蓼花　むくげ　菜花
いそこも　晃谷　萱草
芦　蓮蘭　蘭ノ種
さるとも花　葛の花　帰花

○移徙の事こと事

一赤もとを焼のなりひのもとをこと事

○さるく不用物こと事

金銭花　岸法　ぜんまい　ほし
ひよりこ　櫻草　醫麦　富士桜子　赤山椿
仏桔梗　ほたち草　君遷喬　香附子　河骨
桔梗　赤草　仏倫草　野菊　鬼菊
竜膽　金風毛　白丁花　毛菊　おにさうま
桔梗　花桔梗　仙夢　きうとう　石竹
鶏らん　ほたち草　落のこう
萬年青の雜草

○對の華九心こと事

一二方九徒こるくさゝで二方ハかり
もも同〳〵ものへ一方のこと

○祝言之花こと事

一心ハ直心なり　柏葉膳　まれ
をつゝふよ習ものこと菓花ハこと

○十二月より用華こと事

一月松梅　二月柳桜
一月卯花芍薬　二月高麗蒲
七月桔梗倭花　八月桔梗
十月水仙南天　十一月水仙菊

二月桃桜
六月百合
九月菊　慶賀花
十二月椿　枇杷　梅

○毒虫併ニ用物之事

▲元三梅　水仙　金盞花　▲上巳桃　柳
▲端午竹　菖蒲　石竹　▲七夕桔梗　仙翁花　除蘢菜　枸杞
▲重陽菊　萩　鶏頭花

○そだて方華之事

一そもそも草の花のいまだ蕾の際より指花のうちなりとも下に敷を
ひろげて置ものなり大抵植ものや其外草花を葉ともに
生〳〵ふるものなれば

○草木共に不美花之事

一美不美とわかつ際より草木共に心につくわるくことを
いうなり不美とは心につかぬ事なり不美ハいうもの
心を以て松柳梅を不美と用ゆべし

○花一枝の図之事

一枝の図そも〳〵一枝と用ゆべし物ありても尊
ゆゑ〳〵枯葉焼つべし

一二枝の図そも〳〵一枝と用ゆべし物ありても尊
ゆゑ〳〵枯葉焼つべし

一心を以松柳梅を不美と用ゆべし物ありても尊

○大葉之事

一陰陽共葉ありて両体ある葉を用ゆべし片ありの葉を用

○華瓶之事

一口もさゝぬ花瓶すへ上
其中かたそひらうの枝細にさし葉ひらうする事
○投入の心入て花をあらく入未完の筆ハいうにおよばず押板の上三瓶の何もせん八中当其外左右
一上座の壱一瓶投入乍ら
一三瓶の花乃次第ハ中ハ高く両方ハ中ハ高く両方ハ中ハ高く
○三瓶ニ花生次第
○蓮の一色ニ事
一水草にても生てひとりにて生ずるものハ
花のくきとも生ぜとも葉よりかさりてうへの葉にて合
ざるべし前条の通ニ
一竹
一松
一梅
一桜
一藤
一牡丹
一躑躅
一紅葉ニ事
一先ニ言尾山のようにいりこみ心劇福流ニ葉ニて指へ
加ハ松指けいろいろニ言ニ葉ニなり下
葉指まで〳〵ニ葉ニて草ニて同ニ
まニ一つ〇の三葉ニて

○通用物ニ事
除蝗（やまぶき）　当年葉
酸漿（ほおずき）　枝先葉
蘆（よし）　仙蓼（せんりょう）　南天
牡丹　紫陽花（あじさい）　刈萱（かるかや）
てまり　すゞの　萩（はぎ）
○紅葉ニ事　歯朶（しだ）　赤面竹（しゃくめんちく）　竜睛（りゅうがん）

陰陽のごとくひとつもの也

○若用物之事

松　檜　いぶき　梅　柳

ひばのやうなるみよ若用物也

○一色物之事

松　蓮　杜若　菊　水仙

ひばのやうなる一色ものへ也

七種物ともいふなり

○三ヶ菜色之事

藜蘆（おもと）　松　小歯（にしだ）菜　山三つ之物を菜組よき者

○物雑花之事

雑木（ざつき）　雑草　四花　四菓　四草　四木

六花　六菓　帰化（かえり）　河骨

ひばと松葉よき松云よき時の

なり花も四つ菓も二枚宛也

一九花通ともみ松くして通と仕候物

名のごとく雑不雑をなり

奥を二ツ三ツ也　中草ともいふ

程くさのみにてとん前

くさやうの松葉と